

石井信明（第20回情報システム学会・研究発表大会 BP 賞選定委員会 委員長）

2024年11月30日（土）、12月1日（日）の二日間にわたり、第20回情報システム学会研究発表大会が、種智院大学（京都市）において「情報文化と情報システム」を大会テーマとして開催され、ベストペーパー賞・ベストペーパー特別賞・学生奨励賞の3賞が選定されました。ベストペーパー賞の授与は3年ぶりとなりました。

【おめでとう！ 受賞者の皆様】

- ・ ベストペーパー賞
小林 司、成末義哲、森川博之（東京大学大学院）：企業間取引ネットワークと業種分類情報による信用リスク評価モデルの構築
- ・ ベストペーパー特別賞
中嶋智子（佐久大学）：医療情報システムにみる情報概念の共進性
- ・ 学生奨励賞
辻元悠亮（大阪産業大学）：幼保施設園児保護者の園務情報システム利用要因

【各賞選定のプロセス】

各賞は、次の手順にて選考に至りました。基本的に例年と同様の手順です。

手順1（BP賞選定委員の選出）：今大会では、委員長を含め6名の委員が選出された。

手順2（論文内容確認）：各委員は、期限までに投稿された論文をダウンロードして内容を確認する。

手順3（予備評価）：各委員は、合計の持ち点100点で各論文の予備評価を行う。

手順4（各賞選定）：各委員は、予備評価の内容を総合評価し、メール審議により委員全員が思いを共有して、各賞の該当者を決定する。

以上の手順で選ばれたのが、上記の各賞です。

【各賞の特徴と注目される観点】

ベストペーパー賞では、情報システム論文としての内容、アイデアの新奇性、完成度、情報社会における有用性などが総合的に判断されます。

小林 司、成末義哲、森川博之さんの論文は、「情報リンク分析を応用した企業間取引ネットワークにより信用リスク評価モデルを構築し、非財務データに基づく新たな信用リスク評価方法を示したアイデアの新奇性」、「財務データに基づかない評価による有用性」、「論文としての完成度」、などが高く評価されました。発表後の質疑においても、活発な議論が展

開されていました。

ベストペーパー特別賞では、情報システム論文としてのアイデアの新奇性、情報社会における有用性、今後の発展への期待度などが総合的に判断されます。

中嶋智子さんの論文は、「医療機関が導入している病院総合システムに患者目線からの仕組みが欠けていること」、「医療で扱う情報の概念について医療情報システムを再考している点」、「患者と医療者の間で円滑に機能するための“共進性”に着目している点が、今後の情報システムの在り方に新たな視点を与え、多くの分野で研究の発展が期待出来ること」、などが評価されました。発表後の質疑においても、活発な議論が展開されていました。

学生奨励賞は、これからの情報システム学会を担う若手研究者の増加を期待して設けられた賞です。若手学生の該当者として、4つの条件が付されています。それらは、研究発表会当日において、「①大学に在籍中の大学生または大学院生であること（ただし、社会人の学生は除く）、②30歳未満であること、③論文の第一著者でかつ発表者であること、④提出期限までに論文を投稿していること」の全てが満たされていることです。

辻元悠亮さんの発表は、「実際に幼保施設で運用されているシステムについて、保護者を対象に調査・分析を行った実践的な取り組みである点」、「今後の幼保施設における情報システム導入の一助となる知見を示した点」、などが評価されました。

【各賞の選定を終えて】

事前にダウンロードした論文による予備評価では、これまでと同様に各委員の意見にばらつきがありました。事前のメール審議において、委員の意見が共有され、各賞の選定方針に従い最終的に各賞をまとめることができました。

選定委員は全ての論文を読み、受賞論文以外の発表にも興味深い話題、質の高い論文が多数ある事を共有しました。また大会当日は、大変に活発な質疑が行われており、大会の盛り上がりを実感しました。ぜひとも、今回発表をされなかった方々を含め、次回大会での研究成果の発表をお願いします。さらに、今回発表された方々は、論文の内容をもう一度見直され、「情報システム学会誌」に投稿してください。お待ちしております。

以上